

米価下落、市内農家の状況と求められる対策は

高野 昇

(問) 九州や四国の早場米地帯で、米価が暴落している。市内農家の状況と対策は。

(答)市長 当地域の農協の平成21年度産米については、コシヒカリ60kg当たりの仮渡金は平成20年度と同じと聞いています。

米価下落に対し市として国県に全国一律の生産調整でなく各地域の実情に対応した生産調整を求めていきたい。

◆県の「みどりと川の再生」事業の市としての活用は

(問) 吉川市にとって、河川、農業用水・排水路等の整備は

市民からも切実に求められている課題であり、早急な整備が求められている。県が河川や農業用水路の大規模な整備プランを打ち出しているとき、こうした県の事業を吉川市に活用し、市民要望に積極的に応えるべきでは。

(答)市長 平成21年度に市民から、鍋小路用水路の遊歩道な

どの整備について応募されており、現在選考待ちです。

◆桜並木沿いの木売落し 浄化用水導水での整備は

(問) 二郷半用水を浄化用水として導水し、整備するよう求めてきたが、その後の進捗状況は。

(答)都市建設部長 木売落し上流の通水について、川富地内に既存の排水路があり、その活用を葛西用水路土地改良区にお願いし、基本的には可能であるとのことであり、さらに協議検討していきます。

国保税の引き下げを、税と3割の自己負担分の減免拡充を

佐藤 清治

(問) 国保税を引き下げて欲しいとの声にこたえるべきでは。

(答)市長 平成19年度、税率等の検討を行い20年度から施行させていた。

(問) 税の減免制度のさらなる拡充が求められている。

(答)市長 平成20年度に減免要綱を改正し預貯金の要件を3倍から5倍に拡充したところ

であり、考えていない。(問) 国保加入者が医療機関で支払う自己負担分の減免制度の拡充が必要だ。

(答)市長 見直してまいります。

(問) 見直しの具体的内容は。

(答)健康福祉部長 減免率をわけないで、できるだけ免除という形で検討していきたい。

対象においても上限を130/100に定めていきたい。減免の期間についても3ヵ月以内という設定でしたが期間を拡充して見直していきたい。

(問) 見直しのメドはいつか。

(答)健康福祉部長 来年度実施を目途に考えております。

◆衆議院議員選挙等への感想は

(問) 8月30日投票の総選挙で示された、国民の民意についての感想は。また、新政権への期待するののか。

(答)市長 我が国に生じている様々な課題に対し変化を求める民意が反映された結果であると受けとめております。新政権に対しては国民の付託にしっかりと応えていただき、安心して生活できる社会が実現できることを期待しているところでございます。

新吉川駅は「もっと広く利用しやすく」素晴らしい駅に

齋藤 詔治

(問) 新駅の自由通路、現計画の壁心5m幅では狭すぎです。子どもやお年寄りに大変不便です。吉川市の新たな顔・玄関です。将来の発展も考え通路幅を広く、昇降口も大きく余裕ある、夢のある駅への変更を。

(答)市長 平成19年に実施した新駅設置調査設計に基づき幅4mと算定されたものを5mに拡幅し、階段部分は上下エスカレーターを含め5・38m5・58mの幅員であり十分確保されています。

(問) 例えば幅を2m広げ7mに、床面積は100㎡増え、財源的には総事業費82億円弱からみて、多大な事業費増にはなりません。後からでは大変、再考を強く要望。

(問) 鉄道建設・運輸施設整備支援機構が所有する、旧コントロールセンター跡地の取得

は。(答)市長 市としてコントロールセンター跡地の活用を想定



新駅イメージ図

してなく現在購入予定はない。(問) 新駅を中心に素晴らしい吉川市づくりに向け、大きな視点に立ち購入をお願い。(答)都市建設部長 当面購入は考えてないが、今後区画整理事業実施の中で、必要であれば購入の検討も考えられる。(問) 操車場跡地の処分が平成24年度内にすべて行われます。鉄道運輸機構の土地売却に先立ち、吉川市に対する公共用地や施設の確保・提供のお願いは、また跡地処分に関してのお願い提案・指導について。(答)市長 まちづくり基準条例を順守し将来の土地利用や公園緑地等の基準整備等要望。

※掲載の図はイメージ図のため、実際とは多少異なることもあります。